

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／速水 多佳子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

これまでの自分自身の学校教育現場での経験を生かし、現在の生徒の実態や学校教育現場で求められていることを踏まえて即戦力となる教員の養成を目指す。

- ①教育実践力を付けるために、実習、演習及び模擬授業等を取り入れる。
- ②コミュニケーション能力を育成し、学生が互いに刺激を合い主体的に学べるようにする。
- ③実地指導講師と連携をとりながら、授業を展開する。
- ④模擬授業評価シートを作成して活用する。

以上の点に配慮しながら、家庭科の専門的内容を深めながら指導方法を身に付けさせ、教員としての資質能力を高めるように留意して授業を行う。

2. 点検・評価

・昨年の授業内容を改善し、学生に教育実践力を付けるために、実習、演習、模擬授業等をより学校教育現場に近い形で取り入れ、学生が主体的に、積極的に授業に参加できるようにした。その結果、授業評価アンケートでは高い評価を得ることができた。

・実地指導講師と連携をとり、学生の実態や希望する内容を伝えて授業を展開した。また、授業後には学生からのコメントをまとめて実地指導講師に送った。内容をフィードバックすることができると好評であり、次の授業内容に生かすことができ効果があった。

・模擬授業評価シートを活用することで、学生同士が刺激し合い、限られた回数しか経験することができない模擬授業を共有することができ、効果的に生かすことができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①担任する家庭コースの1年次生と長期履修学生の1年次生の生活や進路等の相談に随時応じる。
- ②担当する卒論生、修論生の指導を丁寧に行う。
- ③教員採用試験の対策指導(教職教養、教科専門、面接等)を行う。

2. 点検・評価

・担任をしている家庭コースの1年次生7名に対して、入学直後と後期の2回にわたって面談を行い、学生生活や友人関係、進路等に関する相談に乗った。

・担任をしている長期履修学生の1年次生15名に対して、入学直後に個別面談を行った。生活の様子や進路等の話をすることで、これからの学生生活への不安を取り除く助けになった。

・長期履修学生(L1～L3)の学生生活や進路に関する相談等に個別に応じた。

・担当する卒論生、修論生の指導を丁寧に行った。また、教員採用試験対策として模擬授業、面接、筆記試験の指導を行った結果、卒論生は兵庫県小学校教諭として採用され、修論生は兵庫県高等学校常勤講師として採用された。

・教員採用試験の対策として、家庭コースの学生や長期履修学生を対象として、教職教養、教科専門の内容についての勉強会を実施したり、小論文指導や面接指導を半年にわたって毎週繰り返し行った。その結果、兵庫県、大阪市、神戸市、徳島県、広島県、愛知県、香川県、東京都、川崎市等に合格した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

①学校教育現場との連携を密にし、学校を支援できる研究を行う。

②研究の成果を学会で発表する。

③昨年度の研究をまとめ、学会誌に論文を投稿する。

2. 点検・評価

・学校教育現場と連携し、中学校と高等学校でそれぞれ授業実践を行った。

・日本家庭科教育学会に参加して、口頭発表を全国大会で1報、四国地区大会で1報行った。

・日本家政学会に参加して、口頭発表を中国・四国支部大会で2報行った。

・日本教科教育学会に参加して、口頭発表を1報行った。

・研究の成果をまとめて、日本家庭科教育学会誌に投稿し、掲載が決定した。
「消費者の自立を目指した『消費者の権利と責任』に関する授業実践」(日本家庭科教育学会誌第55巻2号 2012年8月発刊予定)

・研究の成果をまとめて、家庭科教育実践研究誌に投稿し、掲載された。
「住生活領域の指導の実態と課題-中学校教員に対する調査から-」(家庭科教育実践研究誌第11号 2012年2月)

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

①長期履修学生支援オフィスのスタッフの一員として学生の支援に貢献する。

②学内の各種委員会委員として、大学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

・長期履修学生支援オフィスのスタッフの一員として、水曜日に定期的にホームルームを行い、学生の生活や進路の相談等に応じた。また、前期は支援講座を担当し、後期は支援演習講座として小論文の講座を14回担当した。

・長期履修学生支援オフィスのスタッフの一員として、主免教育実習に向けて、事前に指導案の書き方や模擬授業等の指導を行った。担当した実習校2校を数回にわたって訪問して連絡を取り、教育実習が円滑に進められるように調整を行った。

・就職委員として、教員採用試験の面接練習の指導に複数回にわたり参加して、本学の教員採用試験の合格率に大いに貢献した。

・平成23年度小学校教員資格認定試験実施委員会の副委員長として、問題作成、点検を担当し、問題なく終えることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校の授業実践研究や研究大会に積極的に参加する。
- ②現場の家庭科担当教員の教育実践を支援する。

2. 点検・評価

- ・附属中学校の第55回教育研究発表会(6月3日)に指導助言者として参加した。
- ・附属小学校の第58回教育研究会(2月11日)に指導助言者として参加した。
- ・附属小学校の合同研究会(6月1日、3月7日)に参加した。
- ・附属中学校2年生対象の「総合的な学習の時間」において授業を4時間実施した。
- ・公開講座「韓国文化に親しもう」(10月22日)を担当した。
- ・教育支援講師・アドバイザーとして、高等学校1回、中学校1回の合計2回を担当した。
- ・徳島県、兵庫県の家庭科教員からの家庭科の授業等に関する相談に随時応じた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度の教員採用試験に関しては、学部生、大学院生を含めた学生達が自主的に集まって行っている勉強会に半年にわたって、毎週参加して指導助言を行った。集団討論、集団面接、個人面接、ロールプレイ、模擬授業、教職教養等の多岐にわたる内容を、私自身のこれまでの学校教育現場での経験を生かして指導を行った。また、この勉強会だけではなく、個人的に依頼してきた学生達には個別対応で、何度も繰り返して指導を行った。その結果、本学の教員採用試験の合格率に大いに貢献することができた。この勉強会は学生達が互いに刺激をし合い、教員採用試験に向けてのモチベーションを上げるという効果だけでなく、討論をしていく中で、教員を志望して本学に入学してきた時の初心や教員志望への情熱を取り戻すこともできたようである。また今後、教員として採用されてからの資質能力の向上にも役立つと確信している。現在は、来年度の教員採用試験に向けた勉強会の指導を始めている。